

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2375601651		
法人名	社会福祉法人 カリヨン福祉会		
事業所名	グループホームカリヨンの郷「新千秋」 (オレンジユニット)		
所在地	愛知県 海部郡 蟹江町 大字新千秋 字後西33番地		
自己評価作成日	平成24年11月18日	評価結果市町村受理日	平成25年2月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.carillon.or.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人なごみ(和)の会
所在地	名古屋市千種区小松町五丁目2番5
訪問調査日	平成24年12月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「明るく楽しい生きがいのある生活」と「利用者にとって何が幸せか」を当事業所の理念として、それを具体化するために、全職員が人間愛と人間尊重の基本精神で、利用者に対する温かい心と誠意をもって接し、利用者の処遇向上を図るとともに、高齢化とともに体力的に虚弱化が進みつつある中で、利用者の自主性を尊重した事業所運営と、より一層の誠実な個別処遇を行なうように努力している。さらに、個人情報保護に関しては関係法令を遵守し誠意ある対応を常に心がけている。また、地域社会に根ざした事業所運営をより一層進めていくために、地域高齢者に対しても在宅福祉を積極的に推進し、地域社会における行事に参加するよう、地域福祉に努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「アーユーハッピー?」の支援を心がけ実践している、家族アンケートにも「安心」「感謝」のコメントが目につく。ペラダでの喫煙場所の設置がある。入居者の自由をなるべく制限しない姿勢がある。申し送りも1日4回行い、月1回のミーティング時も、事前に職員からの意見を書面ですせるようにするなど情報の共有、提案に、積極的に対応し、工夫がある。その都度に必要な研修を考え、行われている。職員は、ホール内では入居者の名前を出さず、休憩時などに入居者のいないところで、相談などしている。気持ちよく、過ごしてもらうことに配慮が有り、食事など、時間は入居者のペースで行うなど、手間を惜しまない姿勢がある。口頭では要約して伝え、ケース記録には、細かく記録するなどしている。少しの時間の外出などもなるべく行うなど、きめの細かい支援がある。ユニットの増加もあり、2ユニットの施設として、ますます充実が期待され、同法人のデイサービスとの連携など、今後も、スケールメリットを生かし、地域の福祉、介護の資源としての使命を果たし、拠点としての発展が期待できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人としての理念とは別にGH独自の理念を掲げて、理念の共有を測っている。	理念は、法人理念に加え、ホーム独自に「Are you happy?」を掲げている。ケアを受ける入居者の立場を自分に置き換えて考えるよう、職員への、個別指導時に伝えている。職員も「自分が入居者だったら」との思いで、日々の業務に当たっており、理念がケアの根底にあり共有されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、地域の保育園児・大正琴・フラワーアレンジメントなどの慰問。	町内会に加入し、資源回収や、夏祭りに参加。他に、子ども会の行事、保育園の施設への訪問(2ヶ月1度程度)、防災訓練等の地域交流がある。入居者の散歩時の交流をきっかけに、地域の子もダンスクラブの発表会をホームで開催した。地域の資本としての施設利用など協議中である。	周辺地域住民(顔や名前のわかる)と、緊急時提携など住民そのものとの日常的な交流、関係づくりの、充実が期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の体験学習受入やボランティアを受け入れ、対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度行い、問題・課題があれば現場に持ち帰り、ミーティングで報告・検討している。	運営推進会議は現況、行事報告、地域情報の交換などしている。2カ月に一度開かれている。隣接している特別養護老人ホームと合同で開催しており、入居者へより良いサービスが提供される様、連携を深めている。地域との情報交換の場にも活用されており、特に防災面では、会議後、職員と確認を取り合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村から適宜メールが送信されているが、こちらからは問題が無い限り連絡はしていない。	蟹江町役場の高齢介護課担当者とは顔、名前のわかる交流があり、手続きなど日常の相談、交流がされている。メールや電話などでも行い、事故防止の注意喚起や研修の通知等がある。その他、県主催の研修に参加したり、地区のグループホーム協議会の情報交換会に出席している。月1度のケア会議に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	帰宅願望が強い利用者様がいるため、玄関・階段に施錠を行っている。また、玄関が1Fにあるため、防犯上から施錠している意味合いも強い。階段柵は転倒防止の観点から設置しており、圧迫感のないような工夫をとっている。	ホームは、ユニット間を自由に往来出来るので、拘束感がない。階段に設置の柵は、丈が低く、周り一体化しているので、柵と判別しにくく、階段も認知しにくい工夫がある。ホームが2階で、1階の無人玄関は目が届かず不用心な為、施錠している。	身体拘束について、職員全員で意識を共有していただけるよう期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修やミーティングでの話し合いと、入浴時の全身チェックを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修参加やミーティングで勉強会を適宜開催している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者と計画作成担当者が面接を行ない、納得がいくまで説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	プラン説明時にご家族の意見・要望を聞いたり、要望書を作成するなどしている。	毎月の領収書、請求書と一緒に、写真付きのお便りと「くらし日記」というホーム長が作成した手紙を郵送している。この手紙の返信から、家族の要望を聞き出す等している。編み物講座の要請が家族からあり、開催した事がある。面会時等利用し聞き取りをしている。また、ホームでは応え難い運営上の要望は、法人運営者へ報告し対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のミーティングを実施。それ以外に意見ノートを作り、活発な意見交換を行えるよう工夫している。	ミーティング前に「ミーティング案」用紙を用意し、議題の要望等を職員から募り、取り上げている。普段は「意見ノート」で、職員の意見や要望を聴取しており、その他に、ノートをコミュニケーションの場として活用し、発言し易い雰囲気作りに努めている。交替で両ユニットを勤務させ、職員全員に、ホーム全体を把握させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	新しい人事評価システムを導入し、年2回の自己評価と面談を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務時間内で研修に参加できるよう配慮しているが、研修に行きたくても慢性的な職員不足のため、十分な研修ができていない。特に今年度は顕著に研修参加できていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員不足からもあり、例年に比べ他のグループホームとの相互交流や勉強会は減ってきている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々の生活を一緒に過ごしなが、不安・要望・得意分野・苦手分野を理解していけるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	些細な質問にも誠意を持って対応している。事業所でできることとできないことを明確に伝え、誤解のないよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	すぐに出来る事はすぐに対応し、できないことについては他の専門機関などと連携しながら問題解決に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	主に家事参加を通して、得意・不得意を把握しながら、主体的な参加を促し上下関係のない関係を築き上げられるよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に適宜情報を提供し、家族でしか解決できない悩みなどを一緒に解決している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	それぞれの利用者様の馴染みのスーパー、喫茶店に行くなどしている。	馴染みのスーパーや、喫茶店へは、入居者一人一人が希望する場所へ行っている。家族等の馴染みの方の面会には、面会時間外でも対応し宿泊要望にも答えている。面会時には、椅子を用意したり、茶菓を提供する等、ゆっくり寛いでもらえる配慮をしている。年賀状や暑中見舞いの作成を支援し、入居者全員が出している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係把握に努めながら、それぞれの性格、文化をお互いが認めあえるよう役割分担をするなどして、支えあいが出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	適宜面会等している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ミーティングでの意見交換、担当者会議などの話し合いで希望・意向を把握し、また普段のコミュニケーションから希望・意向をくみ取るよう努めている。	笑顔の数や、表情、また普段の習慣や、買い求める物を観察し、その人の幸せは何かを探っている。ある人は、外出をするようになったら柔和になられたので、外出機会を増やした等、その人にとっての喜びを発見、維持に努めている。業務の合間に時間をとり、一人でいる入居者の傍で、思いに寄り添う事もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者に関して新しい情報があった場合は、ミーティングや業務日誌・意見ノートを使って情報を共有できるよう努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムを把握して無理に団体生活を強いることはしていない。朝食に関しては個々の起床時間に応じてバラバラにとっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングで利用者様の状況や変化を話し合っている。	モニタリングは毎月、全員で、介護計画は半年に一度か、更新時に見直している。ミーティング時に得た情報や意見をまとめ、作成している。モニタリングは、解り易く読み易い様に、項目を重点に絞る等の工夫をしている。様々な報告や書類作成には、毎日の入居者情報を記録し集約されている業務日誌を活用している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録以外に、重要項目は業務日誌に重複して記載することで、情報の共有・徹底を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の用事や要望などあれば、自宅や駅、目的地へ送迎するなどしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	通いなれた喫茶店、商店などを把握して、買い物や散歩にお連れするなどしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	昔からかかっている病院へ行けるよう配慮している。	内科の協力医の往診を月に一度受けている。他の科などで、通院の必要のある人に対しては、同行している。歯科医の往診を検討した事があるが、希望する家族が少なかった為、意向を尊重し、従来通り通院で対応する事になった。入居者のそれぞれの医療情報は「緊急連絡一覧表」にまとめて管理している。家族とは電話、メール、「個別だより」など適時連絡、情報共有し、支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設されたデイサービス・特養の看護師に適宜相談・協力を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	関係作りとはいかないが、適宜、情報交換は行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	同法人内の特別養護老人ホームへの入所説明や他の事業所、病院の情報提供、支援を行なっている。	医療が必要になった場合は転院となるが、転院先の情報提供等をしている。医療上問題なく、看取りの希望があれば、看取り介護の態勢を取っている。その人のケアについて臨時にミーティングを開き、職員へ、確認と共有や、メンタルケアをしている。他入居者とのふれあいを大切に、見守る等の支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習を定期的受講している。夜間時など、職員が少ない時の緊急対応マニュアルを作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常用食料・備品が確保されているが、職員への訓練は徹底されていない。	法人施設全体で昼間想定防災訓練を年2回行い、消化器等の位置、防災用品の場所の把握をしている。20人分の水、食糧を1週間分と簡易トイレやコンロを、水害に備え、2階で備蓄している。事務所に緊急連絡網が貼られ、館内放送設備がある。職員は救命救急講習を受けており、夜間の緊急対応法も心得ている。	施設内の防災の充実と同様に、地域との連携、緊急時の協力体制の充実が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	信頼関係が出来ていないときの安易は言葉がけは注意している。 以前よりはプライバシーの配慮は改善できている。	昼夜逆転の入居者に対し、改善に声かけ等をしているが、基本は、ホームはその人の家なので、意思を尊重した対応をしている。入浴時にタオルをかけたり、排泄時は安全に配慮しながら、トイレ外で待つ等、介助のための介助をしない事で、プライバシー保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	あまり主張されない利用者様に対して、消去法や簡単な選択方法をとることで、できる限り意思を表出できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせた生活ができるよう、生活リズムや体調に配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毛染めを事業所で行ったり、衣類を一緒に買いに行くなどしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の重度化に伴い、一緒に家事が出来る利用者は限られているが、できる利用者にはおしぼり配り・配膳・下膳・台拭きなどお手伝いしてくれている。	入居者の好みを、提供した食事の残量から判断し、献立作りに役立っている。栄養と整腸作用の面から、午前おやつ時に乳製品を提供。両ユニット同献立なので、作業分担し時間短縮を図っている。片付け等は入居者も参加。ホームが用意しているランチョンマットやおしぼりが、食卓を彩っている。週1度程度、手作りおやつ(お汁粉、スイートポテト、アップルパイなど)の提供がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケース記録に食事量・水分量を記入把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全員行っているが、拒否される利用者には無理強いはしていない。義歯の方は就寝前ポリドントにつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックリストと作成・実施することで排泄パターンを把握して、トイレ誘導の時間を工夫している。	入居者の排泄が円滑にいくよう、声かけの工夫や、バイタル、排泄、水分、食事を1枚で記録し、その人のタイミングを見計らって声かけなどしている。日中は、羞恥心に配慮しながら、清潔を第一に考え、あえて布パンツを選択していない。夜間巡視時に、起きている人にはトイレ介助を。そうでない人には、睡眠重視、転倒防止に配慮した対応を取っている。便秘対策として乳製品など利用しながら工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できる限り薬に頼ることのないよう、ヨーグルトや牛乳、水分補給など自然な排便ができるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	おおむね一日おきの入浴ペースとなっているが、利用者の状況に応じて毎日の方もあれば、週2回程度の方もいる。	10時～14時半までの間に、入居者の希望の時間帯で入浴している。拒否の強い人の意思は尊重しているが、清潔保持を目的に、声かけに工夫をしたり、シャワーや清拭で対応をしている。浴室にはリフトがある。脱衣室には、整容のスペースがある。筆記具を置いたり、個人別の塗り薬ポケットを壁に掛けたり等、業務上の工夫が見られる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	傾眠されている時は、ベットへ誘導するなどしている。夜熟睡できるよう、日中の生活と夜間に向けての準備に配慮している。夕食後にホットココアなど牛乳を温めた飲み物を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬情報を共有しながら、変化があった場合は、申し送りを徹底して。服薬ケースに服薬情報を貼り付けて、薬に対する理解を深めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	他の利用者様と比較はせず、本人のやりがいを優先している。役割を快くやってもらえるよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	おおむね1ヶ月に一度は集団外出、年に3回の個別外出を行なうことで、外出機会を支援している。	週に3回、近所の喫茶店や買い物へ、入居者の希望に合わせて外出している。個別外出は、職員2人と入居者2人で出かけるので、手厚い外出支援が実現されている。最近では、大須観音やお千代保稲荷等へ行っている。この他、誕生月にも、その人の希望の喫茶店等へ出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族が希望する以外はこちらで管理している。 結局ほぼ全員事業所管理となっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞いや年賀状を送ったり、希望があればその都度支援している。家族への電話希望があればその都度対応・支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	吹き抜けや天窓からの天気を確認してもらったり、壁画から季節を認知してもらったりしている。	共用部の冷蔵庫は、入居者が自由に利用出来ると共に、入居者の持ち込んだ食品の管理を容易にしている。対面式の調理台や、ゴミ箱の大きさや置き方に工夫が見られ、調理に参加し易いよう配慮がなされている。マッサージ機、フットマッサージ機があり、喫煙所がベランダにある。壁は、目に付く大きな日めくりカレンダーや入居者の作品で装飾されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの配置方法を工夫するなどして配慮している。 仲の良い利用者同士が自然と集まれる場所ができれば、職員同士で確認して居場所作りに配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室担当を決めて、利用者本位の居室となるよう努めている。	各居室の入り口に、表札がかかっている。居室ごとに担当の職員がおり、部屋のレイアウトを入居者と相談しながら配置したり、大掃除をしたり、衣替えの手伝いをしている。衣服の判別がし易い様、各引き出しに大きく名称を貼付したり、衣服の量などに配慮している。居室は鍵をかける事が出来る。シーツは週1回の交換を目安にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	数名の利用者がご自分の居室のカギを持っており、ご自分で管理されている。		

目標達成計画

作成日: 平成 25年 2月 20日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	玄関や階段に柵や施錠がしてある。	<ul style="list-style-type: none"> ・1Fの玄関施錠を開錠できる。 ・2Fの階段柵を開錠できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間帯を決めて試験的に玄関や階段柵を開錠する。 ・柵や施錠以外でできる方法(チャイムや警報装置など)を検討・実施する。 	12ヶ月
2	13	業務時間内で研修に参加できるよう配慮しているが、研修に行きたくても慢性的な職員不足のため、十分な研修ができていない。特に今年度は顕著に研修参加できていない。	すべてのパートを含む職員が、年間を通して最低2回以上の外部研修へ出席・参加できる。また、その参加のすべては業務時間内で参加できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・研修参加に対する年間計画を作成する。 ・目標に対して全職員のコンセンサスを得る。 ・研修に参加しただけで終わらないよう、報告書の作成を促し、フィードバックを図っていく。 	3ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。